
怪傑！「珍」事件簿 第四話

セイデンワコウ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

怪傑！「珍」事件簿 第四話

【Nコード】

N8248P

【作者名】

セイデンワコウ

【あらすじ】

これは、最高裁判所判事の我輩が、磯つりに勤しんでいた頃、珍事件に下した判決の事例集である。
およそ99%がノンフィクションによるものである。

これは、最高裁判所判事の我輩が磯つりに勤しんでいた頃、珍事に下した判決の事例集である。
およそ99%がノンフィクションによるものである。

第四話 『キツ殺魚事件の巻き』

この事件は、メンバーが「四国遠征」と、はりきって、牟岐大島へ釣行したときにおこったものである。

事件の主犯格はもちろんあの小村である。

その日も快調にグレをしとめ、メンバー（佐野と東田）は、満足感に浸っていた。

そのとき事件は突然起きた。

1・5号の細ハリスを使っていた小村は、得体の知れない獲物に何度となくハリスを切られていた。我慢しきれず2・5号の太ハリスに交換した瞬間、その獲物は姿をみせた。

小村の竿は、折れんばかりに美しい曲線を描き、ハリスは切れんばかりに音を上げていた。

「大物に違いない!!」

磯にいたすべての者がそれを確信する。

小村の竿さばきを、心配そうに凝視する二人。「いや、少し待てよ？グレの引きではないぞ？もしかして・・・」、心の中でそう思っていたのは。東田だけではなかった。やはり佐野もそう思っていた。時間がたつにつれ、二人の思いは確信へ変わっていった。

「小村さん！グレと違うでキツや。切れてもいいやんか！早く上げてしまい!!」

真剣に格闘している本人の思いをよそに、佐野も東田もそう叫んでいた。

(ちなみに、キツは磯つりにおいて外道の象徴とされているのだ。) 格闘は、時間になると15分から20分は続いただろうか?本人はもちろん、周りで観戦している二人も、そしてキツまでもがクタクタになっていた。ようやく、上ってきたのはお約束の「キツ」だ。「ほら、やつぱり」と、二人から罵声を浴びられる小村。しかしながら、本人はまだ真剣に外道とのやり取りを続けている。

「待てよ?キツには間違いはないけど、60cmはあるぞ。かんばつて取り込め!」

と、佐野の一言で、現場の緊張感は一気に高まった。

慎重にやり取りしていた小村は、ようやく獲物「キツ」をゲット。と、思った瞬間、

「ボキ!!!」

見事に佐野のタモが折れた。そう・・・キツの重みに耐え切れず折れたのである。

仕方なく、大村は糸を巻き巻きキツを磯際までたどり寄せた。あまりに時間をかけすぎた。

既に「キツ」は仮死状態でまったく動かない。

60cmの大判のキツ。見事な獲物だった。

ただ、地元の徳島の人ですら、キツを食べないらしい・・・身が臭すぎるのだ。

判決：キツ殺魚未遂及びタモ物損

懲役3ヶ月(執行猶予なし)

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8248p/>

怪傑！「珍」事件簿 第四話

2011年1月4日00時10分発行